

西海ブロック水産業情報

NO. 91 (平成27年10月～12月)

増養殖情報

| 山口県 | 福岡県 | 佐賀県 | 長崎県 | 熊本県 |
|-----|---|---|-----|--|
| | <p>○筑前海 フトモズク養殖:年内に種網を作成。年明け2月から各地で海上養殖を開始予定。3月下旬初摘採の見込み</p> <p>○有明海 ノリ養殖: 10月14日に採苗開始。採苗は順調に終了し、その後も順調に経過したが、11月中旬からあかぐされ病が感染拡大。高水温が続き感染力が強い状況下で、断続的な降雨によりあかぐされ菌を干し殺せずには被害拡大し、収量減。 秋芽生産は、10月14日から12月15日まで行われ、産枚数1億9,461万枚(過去5年比52%)、生産金額24億7,590万円(同61%)、平均単価12.72円(同+1.86円)。 冷凍生産は、12月20日から開始され、順調に経過している。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・成長、生残とも順調。11月中旬より順次販売開始。 ・来期用の種苗は確保。 【ノリ養殖】 ・10月中旬採苗。芽流れ等により生産は低調。 【栽培関連】 ・「かぐや装置」によるアサリ稚貝生産、干潟での放流試験を実施中。</p> | <p>○玄海 ・アカウニ:9月下旬から種苗生産開始。12月末時点で殻径3～12mmサイズ約140万個飼育中。 ・クロアワビ:10月下旬から種苗生産開始。12月末時点で殻長2～3mm約70万個飼育中。 ・アゲマキ:10月上旬に殻長2mmサイズ32万個を搬入し中間育成開始。11月上旬に殻長約6mmで有明海地先に11.4万個放流。11月上旬～中旬に62万個を搬入し中間育成開始。1月中旬以降に殻長8mmサイズで有明海地先に放流予定。</p> <p>○有明海 ・ノリ養殖 27年度漁期は10月14日に始まった。秋芽網期は、漁場の栄養塩には全体的に恵まれていたものの、摘採サイズに成長した時期の水温が平年より2～3℃程度高かったことや降水量が多かったことなどからアカグサレ病の影響を強く受け、12月15日の網撤去までの生産枚数は前年の約67%、生産金額は前年の約75%となった。 冷凍網期は12月20日に始まった。網の張り込み以降、漁場の栄養塩は十分な状態が続いており、色落ち被害はない。 ・カキ養殖 大浦地区で養殖されているカキの収量調査の結果、27年度は昨年度の1.8倍程度の収穫が見込まれることとなった。また、昨年度よりも4日早く、11月27日に取扱いが解禁となった。</p> | | <p>(10～11月)シマアジ、カンパチのイリドウイルス感染症による斃死が発生した。 11月下旬にマダイでのベネデニア・セキイ寄生による被害が発生した。</p> |

| 鹿児島県 | 宮崎県 | 大分県 | 沖縄県 |
|---|---|-----|--|
| <p>10月上～中旬に甌島浦内湾でCochlodinium polykrikoidesとCochlodinium sp. Type-Kasasaの混合による赤潮が発生し、漁業被害があった。 10月中～下旬に鹿児島湾でProrocentrum balticum、11月上～中旬に鹿児島湾奥部でAkashiwo sanguineaによる赤潮が発生したが、漁業被害はなかった。</p> | <p>○アカアマダイ種苗生産試験関連 10月29,30,31日の3日間で15尾の雌親魚(活魚)から約27粒の卵を採取し、授精翌日に受精卵をオキシダント消毒(0.5ppm、1分間)したのち、約15万粒を県内種苗生産機関に提供した(育成後、2月に放流予定)。なお、授精に先立ち、22尾の雄親魚(鮮魚)から生殖腺を摘出し、個別に人工精しよう液に精子を懸濁したのち授精まで冷蔵保管するとともに、網膜、脳のVNN検査(Nested-PCR法)を実施し、授精時にはVNN陰性及び精子の活性の良いものを授精に用いた。</p> | | <p>・10月より各生産地でオキナワモズク養殖の種付けが始まっている。種付け及び芽出しの状況は、やや不調。海水温が例年に比較して高水温で推移したことが一因と思われる。特に、先島地方では記録的な低日照の影響も出ていることが懸念されている。 ・石垣支所でのヤイトハタの種苗生産において、早期採卵(2～4月)のため、12月から親魚の加温飼育を開始した。一方、石垣島では沖出し後の当歳魚への寄生虫対策は、高水温期と同様の頻度で実施している。</p> |